

蟻の群れから成る一章

法学部 自治行政学科3年 中井 信太郎

蟻の群れの体液しみる浜辺に立ち

蟻のむくろを波と砂のはざまに置く

蟻を胎水が洗い流すまで

彼岸を望む

落葉積み重なる中、断層を暴き続ける

色分けされたその下の上に、上を下に

アンシャン・レジームから這い出てくる蟻

十一月のとある日の夜に

高層ビルを浄化し清めるべく派遣された

一九四二年生まれのトリック・スター

彼は高層ビルの屋上にて

自らの煙草の葉の中に蟻の死骸を発見する

彼が煙草に火を灯し

灰を天に舞わせるとき

その灰は愛と化して全世界に降り注ぐにちがいない

廃棄されたコロッセウム型・スタジアムに於いて

一メートルおきに配置された落とし穴

もう一度ここで試合を試みるものための陥穽

蟻のむくろと戯れるための陥穽

ある日、蟻たちは地表に人間の爪を発見する：

蟻たちにとって通行を妨げるものでしかない爪に

執着せよと願うわたし

蟻たちはロケット型の爪を発見できるだろうか：

わたしは蟻を連れ、門の前に立つ

無数の皮膚の埋め込まれた

秋の陽によく映える門の前に

門番も実に表情豊かで

周囲にこどもたちがあふれているというのに

わたしは何も聞こえなくなった

蟻よ、おまえには聞こえるというのか・・・

わたしは蟻をプラスチック・ケースに入れ

品川駅のプラット・ホームにたたずむ

常に東からの朝日を

直視せんと試みながら

(終)